

平成 30 年 9 月 19 日

天理市議会議長 大橋 基之様

経済産業委員会
委員長 榎堀 秀樹

経済産業委員会視察報告書

視察日程 平成 30 年 8 月 1 日（水）～8 月 3 日（金）

視察先及び調査事項 長崎県長崎市 8 月 1 日（水）
調査事項「まち歩き観光長崎さるく事業について」

熊本県天草市 8 月 2 日（木）
調査事項「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の
世界遺産登録への取り組みについて」

熊本県市 8 月 3 日（金）
調査事項「熊本地震による観光への影響と今後の取り組みについて」

視察議員	委員長	榎堀 秀樹	(議席番号順)
	副委員長	中西 一喜	
	委員	廣井 洋司	
	委員	岡部 哲雄	
	委員	内田 智之	
	委員	今西 康世	

随 行 議会事務局 河合 宏明

(1) 視察先及び目的

1. 長崎県長崎市

調査事項「まち歩き観光長崎さるく事業」

目 的

さるくとは、まちをぶらぶら歩くという意味の長崎弁。長崎名物・ガイド付きまち歩きツアー「通さるく」、専門家による講座や体験を組み合わせた「学さるく」など、長崎ならではの歴史や文化を味わう「まち体験」を通じて、先進地事例を調査し、将来建設される奈良県国際芸術家村と天理駅周辺、また山の辺の道、石上神宮等をめぐる周遊観光につなげていきたい。

2. 熊本県天草市

調査事項「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録への取り組みについて」

目 的

江戸幕府の禁教令による弾圧の中、密かに信仰を継承しつづけ、明治時代にキリスト教が解禁されるまでの間、「日本独特のキリスト教信仰を育んだ歴史を象徴する集落や史跡が多く世界に類を見ない資産である」と評価され、平成 28 年 7 月に世界遺産の国内推薦を受け、平成 30 年 6 月に世界文化遺産に登録されたその取り組みについて調査し、本市の観光事業に活かしていきたい。

3. 熊本県熊本市

調査事項「熊本地震による観光への影響と今後の取り組み」

目 的

平成 28 年の熊本地震により、熊本城をはじめ、多くの観光施設や宿泊施設が被害を受け、観光事業についても多大な影響があった。

しかしながら、地震直後は、宿泊客も一時的に落ち込んでいたものの震災復興業務従事者の滞在や「九州ふっこう割」の実施などにより回復が見られ、前年比で僅かな減少にとどまったということであり、それらの取り組みについて調査する。

また「熊本市 経済・観光アクションプラン 2018」を策定し、熊本地震からの復興を目指している。

(2) 視察概要

1. 長崎市役所

①視察日時 平成 30 年 8 月 1 日（水）13 時 30 分～15 時 30 分

②調査事項

「まち歩き観光長崎さるく事業について」

③視察先対応者

文化観光部 観光推進課 国内誘致係 浦川係長

〃 出島復元整備室 柴田係長

④施策概要

平成 18 年に日本で初めてのまち歩き博覧会を開催。遊さるく 42 コース、通さるく 31 コース、学さるく 74 テーマを基礎イベントに市民が運営を支える（プロデューサー95 人／ガイド 325 人ほか）。期間中の観光客数は前年同期比 6.7%増となり、博覧会の延べ参加者 1,023 万人、経済波及効果 865 億円以上となる。

⑤参考資料

- ・「長崎さるく」の概要資料
- ・通さるく、学さるくパンフレット
- ・出島表門橋架橋プロジェクトパンフレット

(3) 考察と今後の課題

長崎市は、多様な本物の資源、独特な歴史・文化、そして交流を受け入れる市民性等の強みがあり、それらが狭い中にぎゅっとつまっているまちの特性を活かし、まち全体をパビリオンとして、市民による企画・運営により平成 18 年にまち歩き博覧会“長崎さるく 06”を開催した。

以降は、長崎さるく事業として、まち歩き観光を継続して実施しており、経済効果はもとより、来訪する方が長崎市に興味を持ってもらうために、市民自らが自発的にまちをきれいにしたり、市民の名物ガイドが生まれたりと好循環していった。

現在では、全国的にまち歩きが普及しているため、その特性を活かす方法や、料金システムの見直し、ガイドのマンネリ化が今後の主な課題となっている。

また、さるくコースの一つである出島復元場所を現地視察したが、この出島については、平成 8 年より本格的な復元事業に着手しており、平成 13 年には史跡内民有地を完全公有化、そして、平成 29 年には表門橋架橋及び公園整備を完成させ、長崎の新たな観光地として威勢を放っているように感じた。

本市においても、今後、観光事業を活性化していくためには、これから建設を予定されている奈良県国際芸術家村だけを拠点とするのではなく、周辺の施設や史跡を組み合わせたまち歩きコースを策定するなど、長崎市のような「まちを歩くこと」により観光だけでなく本市を知っていただく・体験していただくような新たな周遊観光につなげていくことが重要であると考えます。

2. 天草市役所

①視察日時 平成 30 年 8 月 2 日（木）13 時 00 分～15 時 00 分

②調査事項

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録への取り組みについて」

③視察先対応者

観光文化部 世界遺産推進室 丸林室長

④施策概要

キリスト教禁教による宣教師不在の中、神道や仏教などの日本の伝統的宗教や一般社会と関わりながら信仰を続けた潜伏キリシタンの伝統のあかしとなる遺産群が平成 19 年に世界文化遺産暫定リストに記載されてから、平成 30 年 6 月に世界遺産に登録されるまでの経緯。

⑤参考資料

- ・長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産説明資料
- ・世界文化遺産登録！「天草の崎津集落」パンフレット

（3）考察と今後の課題

これまでの世界遺産は、見て直感的にすごいと感じる「物」であることが多かったようであるが、今回の場所は、歴史的に重大な「事」

があった場所“記憶の場”を後世へ継承することが重要視され、世界遺産登録という形になったということである。

目に見えるものや形ではない「異文化理解の大切さ」。これまでの「見る遺産」ではなく「学ぶ遺産」として、世界遺産に登録されたことは大変意義のあることであると思われる。

本市には、日本最古の道といわれる「山の辺の道」や数千にもおよぶ大和王朝時代の古墳群があり、そこから出土された品物や壁に描かれた絵画などから、大陸と深いつながりがあったことを知ることができ、古代のロマンを感じさせてくれる。

現在、これらの史跡は世界遺産に登録されているわけではないが、学ぶ遺産としては十分に価値のあるものだとは認識している。

また本市の観光分野では、さまざまな情報発信（ツイッター、パンフレット等）をおこなっているが、それと同時に受入れ態勢の充実というのも重要で、今回の視察でも、世界遺産に登録されてから、天草市への来訪者がどんどん増えており、資料館やインフラ整備など、登録前から実施していなければ、これだけの受入れはできなかったとも言っておられました。

また教育分野では、この地域が世界文化遺産に登録されたことで、天草市民の自信と誇りにつながり、次世代を担う子どもたちが郷土の歴史や文化を学習するよい機会となったということであった。

本市も、世界文化遺産とまではいかなくとも、「学ぶ遺産」として素晴らしいものがあり、それについて学ぶことで、郷土愛や地域理解を深めることにつながるものであると考える。

3. 熊本県熊本市役所

①視察日時 平成 30 年 8 月 3 日（金） 9 時 30 分～11 時 30 分

②調査事項

「熊本地震による観光への影響と今後の取り組みについて」

③視察先対応者

経済観光局 観光交流部 観光政策課 福島課長

④施策概要

平成 28 年に起きた熊本地震であるが、震度 7 の地震が立て続けに 2 回発生。また震度 6 弱以上の地震が 7 回、そして、余震について

は4,478回（平成30年3月31日現在）も発生している。

被害状況については、人的被害（死者：85人、重傷者768人）住宅被害（り災証明書交付件数135,729件）となっている。（数値はどちらも平成30年4月30日現在のもの。）

このような大地震のなか熊本市は、インフラ部分について大きく被害を受けなかったため、それ以外の部分で大きく整備ができ、地震からの復旧・復興に伴い、観光客数及び観光消費額において、地震発生前（平成27年）の数値を上回る状況がみられた。内容については、震災復興業務従事者の滞在のほか、国内観光客の回復及び外国人観光客が大幅に増加したことが起因している。

また観光への取り組みとして、工事中の熊本城を『今しか見られない熊本城』として、傷ついた天守閣や石垣、その他重要文化財建造物の姿を少しでも近くで見せるため、復旧工事の過程を観光客に安全に見せる工夫をしている。

⑤参考資料

- ・熊本地震からの復興と観光客の増加に向けて 説明資料
- ・熊本市経済・観光アクションプラン 2018
- ・平成29年熊本市観光統計について

（3）考察と今後の課題

地震により非常に大きな被害を受けた熊本市であるが、その後の取り組みとして、工事中の熊本城を『今しか見られない熊本城』としてアピールしたり、周遊コースに被災前の姿と工事内容等を記載した新たな案内板を設置し、番号でつなぐ復興見学コースを設定したりして、復旧工事の過程を観光客に安全に見せる工夫をし、熊本は「安心・安全」であることのアピールと熊本の魅力発信の強化を図っており、また、案内板に書ききれない内容や外国人に対する標記については、スマートフォンで読み取れるようにQRコードを利用し、国内外の観光面に工夫を凝らしていることが感じられた。

一方、当面は立ち入りできない熊本城に代わる観光素材として熊本城ミュージアムわくわく座を改修し、体験型の魅力あふれるものに向上させ、観光客のキープを図っている。

今後も大規模なイベントを計画しているということであるが、震災後、ここまで復旧・復興できたのは、失敗を恐れず、あらか

ることにチャレンジしていく姿勢があったからではないかと考えさせられるところがあった。

本市を含む奈良県は、比較的災害の少ないまちと言われているが、近年は、局地的に大雨が降るゲリラ豪雨や大地震といった災害が発生することもあり、いつ我々の身に起こるかわからない。その時の被害状況により何を優先していくのが最も重要なことであり、まずは人命救助が絶対優先となるが、その後の段階として、熊本市のような取り組みやチャレンジ精神を復旧・復興の参考にしていきたい。